



学校だより

平成27年7月1日

7月号

NO. 317

横浜市立茅ヶ崎小学校

校長

岩本

悦子

「ボツワナ共和国との交流を通して」

遊歩道で淡いピンクの昼顔を見かける頃となりました。子どもたちは、梅雨の晴れ間、プールで水しぶきをあげながら水泳学習に取り組んでいます。

さて、昨年度に引き続き3年生が、都筑区アフリカ交流事業「第2回都筑・ボツワナ交流児童画展」に参加することになりました。

今年度も、6月18日（木曜日）にボツワナ大使館の方々が



来校され、ボツワナ共和国の文化や生活について紹介してくださいました。まず、在京ボツワナ大使のシカテさんが勉強することの大切さについてお話してくださいました。その後、映像を見ながら世界最大のダイヤモンド生産国であることや、国立公園でゾウ・ライオン、キリン・カバなどの野生動物が生活している様子などについての説明を聞き、子どもたちは驚いていました。また、ボツワナの言語であるツワナ語を大使館員の方々と一緒に練習し、大使館の皆さんの温かいお人柄に触れながら、楽しいひと時を過ごしました。

昼休みには、昨年度参加した4年生が大使館員の方々と再会しました。「大きくなりましたね。」と声を掛けていただいたり、握手していただいたり、4年生の子どもたちも大喜びでした。2年目の交流となり、今後は3年生と4年生がボツワナ共和国についてどのように交流していくのかも楽しみです。

約13,600km離れているボツワナ共和国のベン・テマ小学校で、9月7日から11日まで本校の3年生が描いた絵が展示されます。今年の3年生はどのような絵を描くのでしょうか。ベン・テマ小学校の子どもたちからは、どのような絵が届くのでしょうか。お互いの絵を見ながら子どもたちはどんな会話をするのでしょうか。想像するだけで今年も「わくわく」してきます。

私は、今年度も「都筑・ボツワナ交流児童画展」を通して、本校の子どもたちが、遠く離れているボツワナの子どもたちの生活や思いを知り、文化や習慣の違いを認め合ったり、共通点を発見し合ったりすることによって、異文化を尊重しようとする態度が育まれることを期待しています。また、今回の活動を通して、茅ヶ崎のまちや日本の文化・習慣のすばらしさを改めて見つめ直してほしいと願っています。

また、在京ボツワナ大使館、在ボツワナ日本大使館、都筑区役所、JICAボツワナ支所の皆様、そして、つづきMYプラザの皆様のご支援・ご協力によって、遠く離れたベン・テマ小学校の子どもたちに本校の3年生の子どもたちの絵が届けられ、その絵を見て日本のことを考えたり、話し合ったりしてくださることのすばらしさを伝えたいと思います。

実はベン・テマ小学校も女性の校長先生です。私も、ベン・テマ小学校の校長先生にお手紙を書いてみようと思います。